

手塚治虫 緻密な昆虫画

浜松科学館 特別展、コーナー新設

浜松市中区の浜松科 企画「鉄腕アトム 口展」(中日新聞東海本社後援)に関連し、「手塚治虫と昆虫」コーナーを新設した。手塚氏が描いた昆虫の細密画やエッセーと実際の標本を展示している。三月三十一日まで。



手塚氏は中学生のときに昆虫を熱心に観察し、細密画やエッセーを「昆虫つれづれ草」としてまとめている。今回はその本に着想を得て、元小学校教諭で同館相談役の安藤隆敏さん(ナミ)が企画した。本の中でチヨウが描

安藤隆敏さんと新設の昆虫コーナー―浜松市中区で

かれたページを開いて置き、横に標本を添えて、手塚氏が描いたチヨウと本物と見比べられるようにした。ナミアゲハやギフチヨウ、ホソオチヨウなど十六種類が並ぶ。その他に手塚氏の少年時代の年表や、ペンネーム「治虫」の由来となった

「オサムシ」の生体も展示している。標本は、安藤さんが東海地方を中心に各地へ出向いて集めた自前のものである。小学校教諭をしていたとき、児童の自然を見る目を育てようとチヨウの採取を始めた。「科学館へ来る小学生に、手塚さんが

どう少年時代を過ごしていたのか見てほしい。標本で実物をみて昆虫の魅力を感じてもらえたら」と話す。鉄腕アトムの特別企画展は無料だが、細密画や標本などの展示は有料の常設展の自然コーナーにある。

(相沢紀衣)